

「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく 埼玉県の減災に係る取組方針の取組状況

令和２年８月

埼玉県管理河川の氾濫に関する減災対策協議会

さいたま市、川越市、熊谷市、川口市、行田市、秩父市、所沢市、飯能市、加須市、本庄市、東松山市、春日部市、狭山市、羽生市、鴻巣市、深谷市、上尾市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、久喜市、北本市、八潮市、富士見市、三郷市、蓮田市、坂戸市、幸手市、鶴ヶ島市、日高市、吉川市、ふじみ野市、白岡市、伊奈町、三芳町、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村、美里町、神川町、上里町、寄居町、宮代町、杉戸町、松伏町、国土交通省関東地方整備局（利根川上流河川事務所・江戸川河川事務所・渡良瀬川河川事務所・高崎河川国道事務所・荒川上流河川事務所・荒川下流河川事務所・二瀬ダム管理所）、気象庁熊谷地方气象台、独立行政法人水資源機構（利根導水総合事業所・下久保ダム管理所・荒川ダム総合管理所、）、**東京発電株式会社**、埼玉県

①河川情報ホットライン【取組①】

対象河川

- 県管理洪水予報河川、水位周知河川

ホットライン実施者

- 第1ホットライン（氾濫危険情報水位に到達、越水・溢水を確認）
河川管理者（県土整備事務所長） ⇒ 市町村長
- 第2ホットライン（避難判断水位に到達）
河川管理者（県土整備事務所担当者） ⇒ 市町村担当者

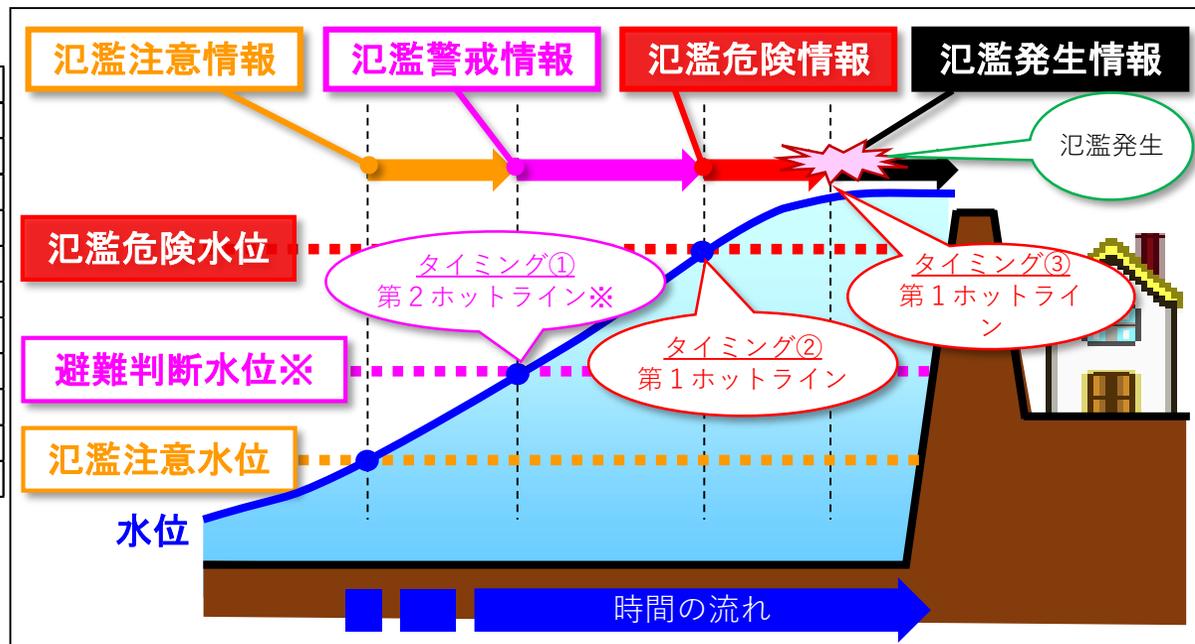
運用開始

- 平成30年6月1日

令和元年度 実施状況

市町	回数	市町	回数	市町	回数
さいたま市	4	ふじみ野市	2	白岡市	1
川口市	4	所沢市	2	越谷市	2
戸田市	2	鴻巣市	1	春日部市	2
蕨市	2	本庄市	1	三郷市	1
上尾市	2	美里町	1	吉川市	2
八潮市	3	上里町	1	松伏町	1
草加市	3	深谷市	2	吉川市	2
朝霞市	2	熊谷市	1	東松山市	2
和光市	1	行田市	1	吉見町	1
川越市	2	加須市	1	川島町	1
富士見市	2	久喜市	1		

計 56回



②水害対応タイムラインの作成【取組2】

綾瀬川
(一の橋水位観測所)

台風の接近・上陸に伴う洪水時の
避難勧告の発令等に着目したタイムライン(防災行動計画)【川口市】

別紙2-2

※避難勧告等に関するガイドライン(内閣府:平成29年1月)、タイムライン(防災行動計画)策定・活用指針(国土交通省:平成28年8月)を参考に作成。
※時間経過や対応項目については想定で記載しており、実際の気象経過等を踏まえた対応が必要。



○作成スケジュール

- 平成30年度 洪水予報河川のタイムライン作成 (17 / 17)
- 令和元年度 水位周知河川のタイムライン作成 (9 / 38)
- 令和2、3年度 その他の河川のタイムライン作成 (0 / 62)

タイムラインの例

③ Lアラートを活用した河川防災情報の提供【取組7】

対象河川

○埼玉県管理水位周知河川（14河川）

配信内容

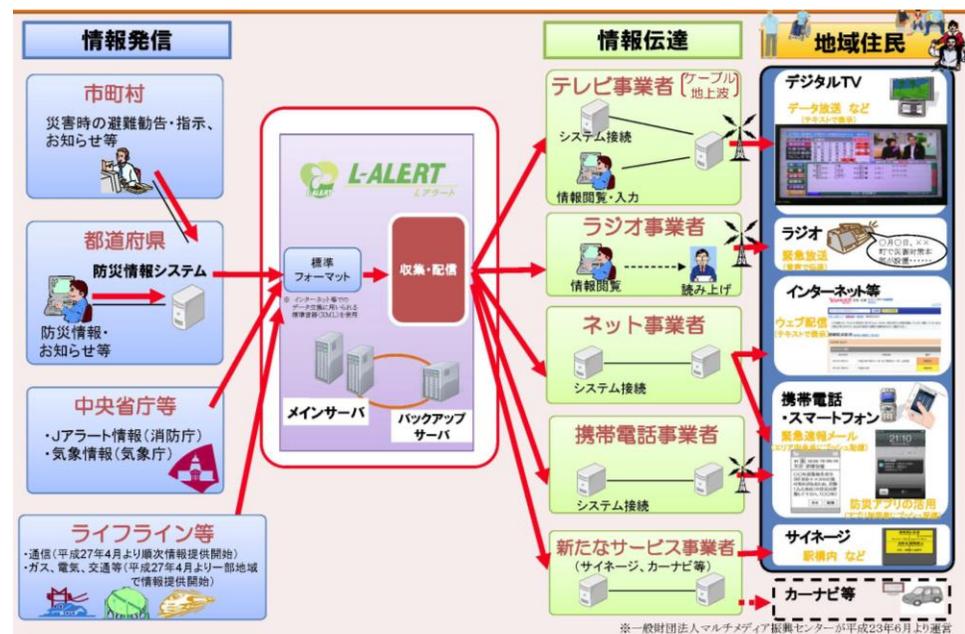
- 氾濫危険水位に達した場合に配信
- 氾濫危険情報をテレビやラジオなどの各情報メディアへ提供

運用開始

○平成30年5月1日

令和元年度 実施状況

- | | |
|---------------|--------|
| ○鴻沼川（十五条橋観測所） | 氾濫危険情報 |
| ○市野川（慈雲寺橋観測所） | 氾濫危険情報 |
| ○市野川（天神橋観測所） | 氾濫危険情報 |
| ○元荒川（三野宮観測所） | 氾濫危険情報 |
| ○新方川（増林観測所） | 氾濫危険情報 |
| ○黒目川（浜崎観測所） | 氾濫危険情報 |
| ○唐沢川（新東橋観測所） | 氾濫危険情報 |
| ○福川（井殿橋観測所） | 氾濫危険情報 |
| ○鴨川（日進上観測所） | 氾濫危険情報 |



※一般財団法人マルチメディア振興センターが平成23年6月より運営
※総合防災情報システム(内閣府)と接続予定

Lアラートの概要

④緊急速報メールによる洪水情報の配信【取組7】

対象河川

- 埼玉県管理洪水予報河川（綾瀬川、新河岸川、芝川・新芝川）

配信対象エリア

- 沿川市（さいたま市、川越市、川口市、越谷市、朝霞市、志木市、和光市、富士見市、ふじみ野市）

配信内容

- 氾濫危険水位に達した場合及び越水・溢水が確認された場合に配信
- 配信対象エリア内の携帯電話にメール配信

運用開始

- 平成30年5月1日

令和元年度 実施状況

- 芝川・新芝川（青木水門観測所）氾濫危険情報
- 新河岸川（宮戸橋観測所）氾濫危険情報



洪水情報のプッシュ型配信イメージ

⑤気象情報伝達方法の改善等【取組 8】

◇台風説明会やホットラインの実施、及びJETT（気象庁防災対応支援チーム）の派遣【熊谷地方気象台】

背景

※JETT（ジェット）= JMA Emergency Task Team

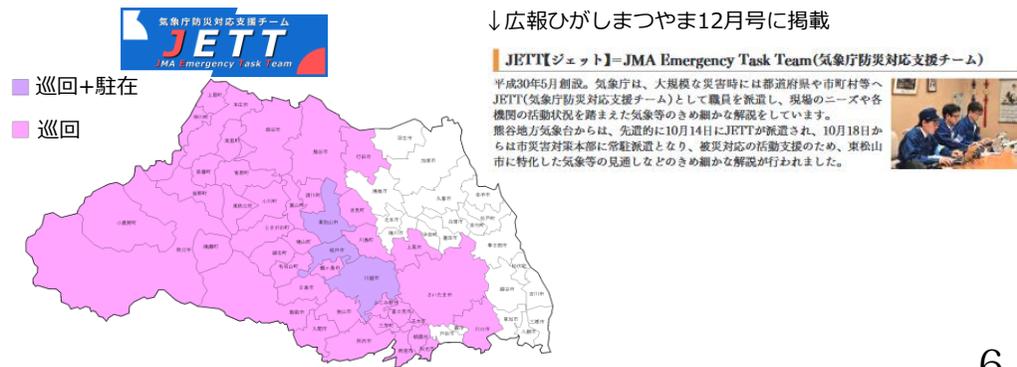
- 災害時等の防災担当者向けの解説（発表されている情報を専門的に補足する説明）が、都道府県や市町村等のニーズに応え切れておらず、解説の充実や強化が必要。
- 災害時等には、必要に応じて気象台より「JETT（気象庁防災対応支援チーム）」として、都道府県等に要員を派遣し、現場のニーズを踏まえた適時・的確な気象解説の実施等により、防災対応を支援。

実施内容・今年度の実施状況

- 「防災メール」により、今後の詳細な予想等の情報提供を、原則一日二回実施。
- 台風第19号に関して、早めの台風説明会を、10月10日気象台、11日県庁にて実施。
- 「ホットライン」により、危険度の高まりと気象の解説を、11日に63市町村担当者に実施。土砂災害警戒情報や特別警報発表の際には、担当者及び首長へのホットラインを実施。
- 埼玉県へは、10月12日県庁災害即応室へJETT派遣し、13日の第1回埼玉県災害対策本部から気象の見通しを解説。
- 10月13日から18日にかけて42市町村にJETT派遣。18日から29日にかけて川越市、東松山市及び坂戸市において駐在により、各災害対策本部等での防災気象情報の解説・提供等を実施し、被災地域の復旧等を支援。



台風説明会の様子



JETT（気象庁防災対応支援チーム）の派遣

⑥住民等への情報伝達方法の改善【取組 9】

◇防災行政無線と住民向け登録メール（草加市あんしんメール）、市ホームページ及びSNSへの同時配信【草加市】

昨年度までの経緯・背景

- これまで防災行政無線で放送した内容は、職員が再度手入力で市ホームページの放送履歴に投稿し、住民向け登録メールに配信を行っていた。
- 災害発生時の混乱している中で、複数の媒体に情報を配信することに限界があった。

実施内容・今年度の実施状況

- 防災行政無線（音声合成）の放送と同時に市ホームページへの放送履歴と住民向け登録メールに文字データを配信できるよう、防災無線操作卓の改良・連動可能なメール配信業者への変更。
- 草加市公式SNSにも同時配信できるよう、さらに改良を進めている。

実施効果（特に令和元年東日本台風にかかわるもの）

- 台風時はメール連動のみであったが、大雨と強風により防災行政無線が聞こえづらい中、メール登録者に避難情報を確実に伝達できた。
- 本部が問い合わせで混乱する中、1回の入力で複数の媒体に情報を配信することができた。

⑦出水時に備蓄されている資材が有効かつ迅速に活用されたことを確認【取組⑫】

【吉川市】

可搬式エンジンポンプを活用した道路冠水の早期解消

背景

- 道路構造が「すり鉢状」になっており、横を走る水路が溢れて道路冠水が発生する。
- 河川水位が高く、自然流下ができなため解消まで数日かかることが多かった。
- 機能性と機動性を兼ね備えたエンジンポンプを3台購入していた。

実施内容・今年度の実施状況

- 台風通過後の10月13日午前中に1台設置して排水作業を開始した。
- 午後には2台目を投入して、夕方まで排水作業を継続した。

実施効果（特に令和元年東日本台風にかかわるもの）

- 13日夕方までに冠水は概ね解消して、自動車や自転車の走行が可能になった。
- 早期に3台で排水していれば、更に効果的だったと考えられる。



排水作業の様子

作業開始時は、道路と水路の境が分からなかったが、11時過ぎには写真のように冠水が解消された。このあと2台目を設置したことで、夕方には全線で道路冠水を解消することができた。

⑧ 広域避難計画の策定に向けた意見交換会の実施【取組 1 4】

▶ 広域避難検討会は、今後の広域避難の検討方針を示すとともに、関係自治体から令和元年東日本台風(台風第19号)時の避難の課題を把握し、今後、広域避難計画を策定するための課題を把握する目的で、意見交換会形式で開催した。【荒川上流河川事務所】

○開催概要

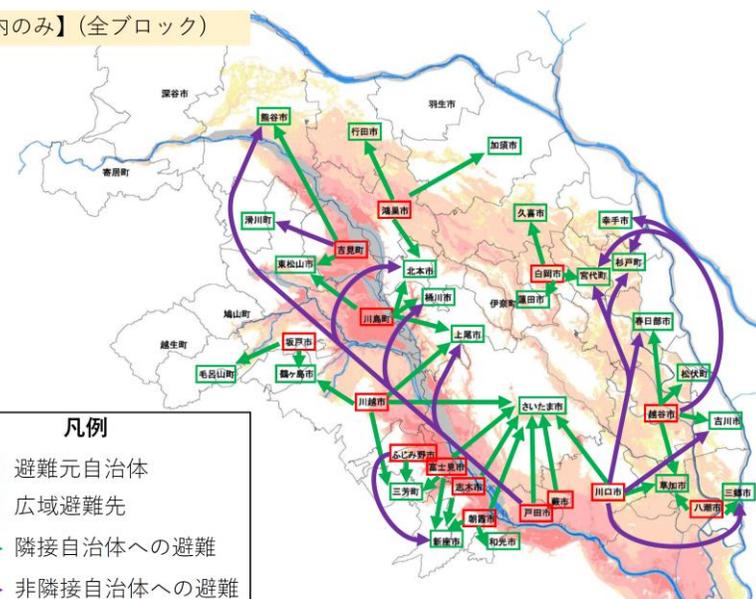
- 日時：令和2年2月26日(水) 15:00~16:30
- 場所：荒川上流河川事務所 流水管理棟大会議室
- 参加機関：川越市、東松山市、坂戸市、川島町、吉見町、荒川上流河川事務所(事務局)
- 参加機関の選定理由
 - ・ 令和元年東日本台風(台風第19号)で決壊の影響を受けた自治体
 - ・ 入間川緊急治水対策プロジェクトに関係する自治体
 - ・ R3ブロックにおける避難元の自治体

○開催状況

区分	開催状況	
資料説明 状況		
意見交換 の様子		

○事務局試案の提示

【屋内のみ】(全ブロック)



- 凡例
- 避難元自治体
 - 広域避難先
 - 隣接自治体への避難
 - 非隣接自治体への避難

⑨地域防災力の向上のための人材育成【取組 2 1】

★子どもの命を守るアウトドア防災ガイド【宮代町】

背景

- ・災害発生時に要配慮者となる赤ちゃんや小さい子どもを守るため、家庭で普段からできる防災対策を通して人材育成をしていく。

実施内容・今年度の実施状況

- ・開催日：8/31
- ・参加者数：102名



実施効果（特に令和元年東日本台風にかかわるもの）

- ・避難所へ避難する際の持ち出し品の用意

⑩想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図【取組24】

(簡易な方法も活用した浸水想定【取組6】)

◆洪水浸水想定区域図の見直し

対象河川

- 洪水予報河川・水位周知河川（18河川）

作成時期

- 令和2年度出水期まえに指定・公表

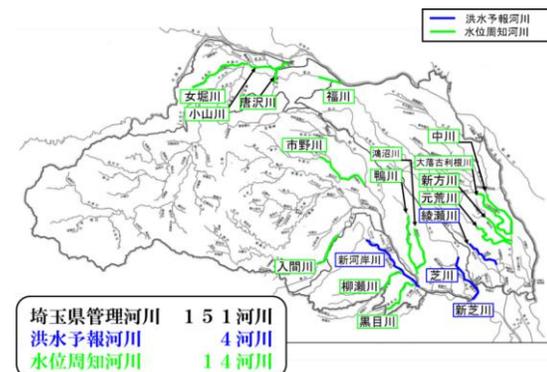
◆簡易な方法も活用した浸水想定の情報提供

対象河川

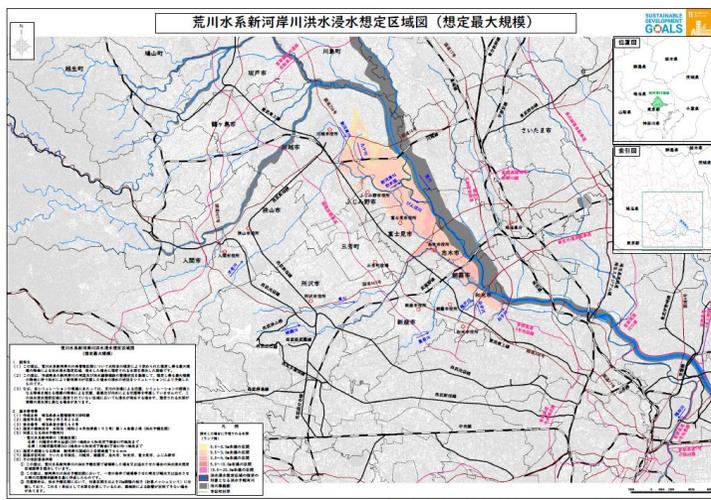
- 県管理河川の洪水予報河川・水位周知河川に指定した区間以外の区間（148河川）

実施内容

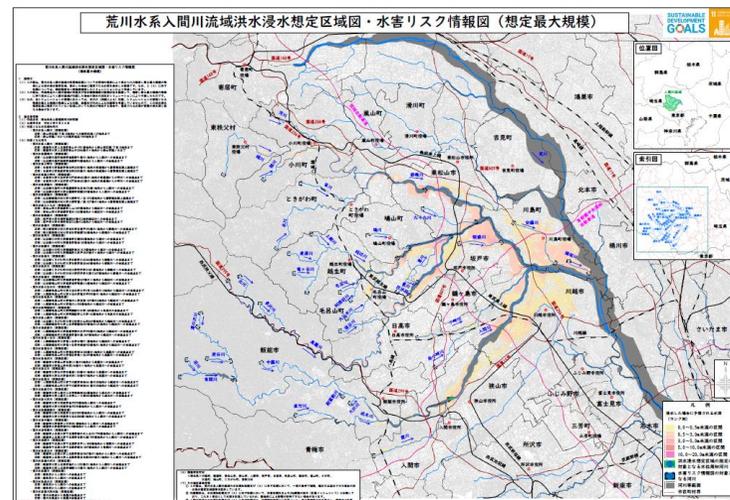
- 想定し得る最大規模の降雨により、対象河川が氾濫した場合の浸水想定範囲や浸水深を示した水害リスク情報図の作成・公表



埼玉県が管理する洪水予報河川・水位周知河川



洪水浸水想定区域図



水害リスク情報図

⑪要配慮者利用施設の避難確保計画作成に係る講習会の開催【取組23】

- 主催：行田市
- 協力：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、
気象庁熊谷地方気象台、埼玉県
- 参加者：51施設56名（対象82施設）
- 開催日：令和元年11月13日（水）13:30～16:00

●概要

- ・利根川上流河川事務所と熊谷地方気象台による講演を行い、計画の必要性や気象情報の活用について理解を深めた。
- ・市の防災担当者から、国の手引きや様式に沿って説明を行い、自らの施設について考えてもらうワークを行った。
- ・台風19号の後に開催したこともあり、非常に熱心で関心の高い講習会であった。

●取組の工夫点

- ・出席する施設に、事前に国が公表した手引きや様式集等を冊子にして郵送し、当日の進行をスムーズにした。
- ・当日のワークに当たり、グループ分けを同業種ごとにした。
- ・施設ごとに、洪水ハザードマップに施設を落とし込んだものを作成し開催通知に同封するとともに、当日も配付した。

●講習会の様子



⑫教職員を対象とした講習会の実施【取組33】

▶ 防災教育の一環として、小・中学校の教員を対象として「荒川の防災を学ぶ～新学習指導要領を見据えて～」と題して学習研究会を実施した。【荒川上流河川事務所】

○開催概要

- 日時：令和2年2月26日(水)
- 8：45～12：00
- 主催：埼玉県社会科教育研究会
- 後援：埼玉県教育委員会
- タイムテーブル

時刻	内容	講師等
8：45	受付	
9：00	開講式	
9：10	講話『荒川上流部の 防災・減災対策について』	国土交通省荒川上流河川事務所 防災情報課長 林 健二 様
9：40 9：45	移動（マイクロバス）	
10：15	見学 ①さいたま築堤工事現場 ②西遊馬防災ステーション工事現場	
11：30	移動（マイクロバス）	
12：00	閉講式	

○開催状況



⑬防災教育の推進【取組34】

防災教育及び防災知識の普及【上里町】

テーマ

「水害防災の観点から私たちの町の特色と課題をつかみ、防災を中心に町と私たちの在り方を考えよう」

期 日 令和2年1月

目的

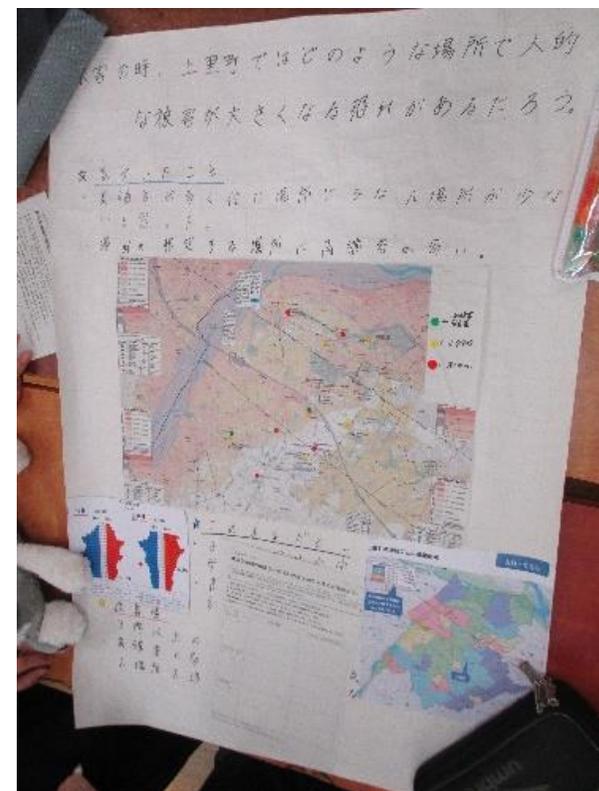
中学2年生の授業で、各地域ごとで起こり得る災害の状況や人口、高齢者分布状況などによる避難所や交通網などの問題点等をグループごとに検討、発表を行い、自分たちの住む町の状況を知ることが目的に実施。



防災授業の様子



グループ検討の様子



グループで作成した資料

⑭危機管理型水位計の整備【取組35】 河川監視カメラの拡充【取組36】

◇危機管理型水位計

平成30年度設置状況

- 20箇所設置・運用開始

令和元年度設置状況

- 10箇所設置・運用開始

令和2年度設置予定

- 20箇所設置予定

水位設定

- 観測開始水位：3割水深で設定
- 危険水位：設定しない（水位データ収集後に検討）

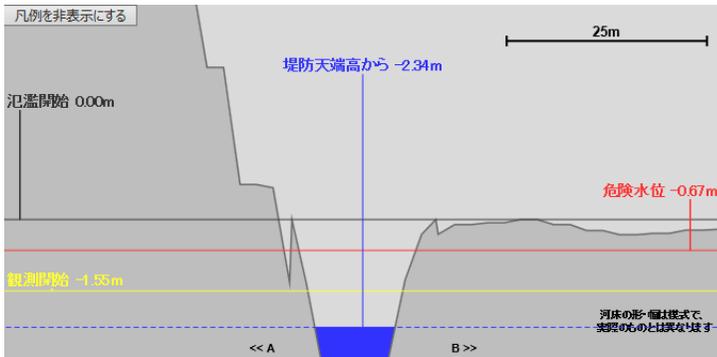
◇簡易型河川監視カメラ

令和元年度設置状況

- 37箇所設置

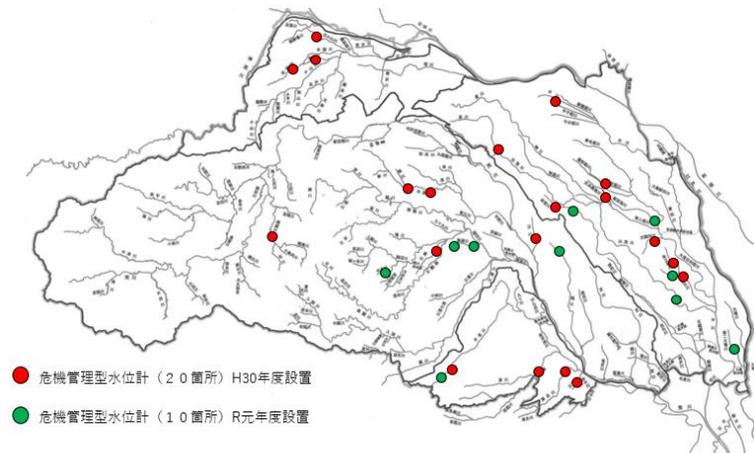
令和2年度設置予定

- 21箇所設置予定

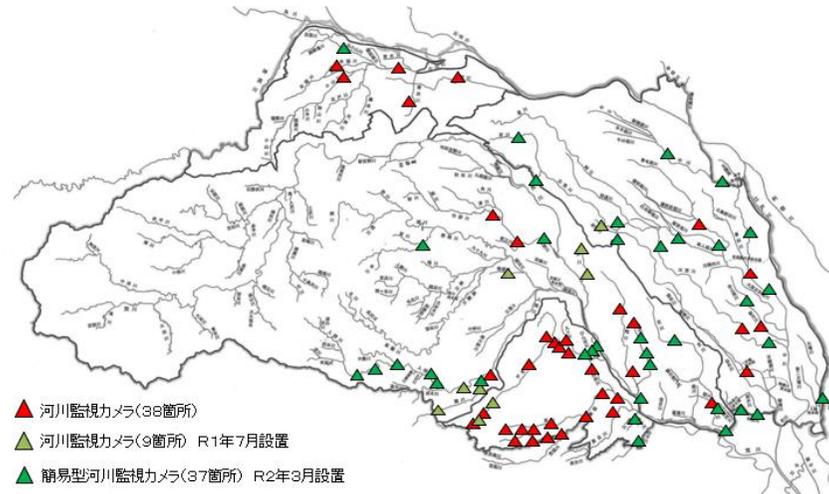


危機管理型水位計の表示例

危機管理型水位計設置位置図（令和2年3月時点）



河川監視カメラ設置位置図（令和2年3月時点）



⑮水防資機材等の配備・確認【取組43】

【高崎河川国道事務所】

昨年度までの経緯・背景

- 烏・神流川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会の水防連絡部会において、水防警報、洪水予報、重要水防箇所等の情報と併せ、水防資器機材備蓄状況について情報共有している。

実施内容・今年度の実施状況

- 令和元年7月10日開催の水防連絡部会において、議題「水防活動に対する河川管理者の協力及び援助について」の中で情報提供済。右図は添付資料の一部。

高崎河川国道事務所所有（平成30年11月2日時点）

水防備蓄資材一覧表

資材名称	規格	単位	写真	備蓄箇所																				合計	備考
				烏川					鏡川					神流川					碓氷川						
				高19.0k 右岸19.0k	高17.6k 上流	高17.6k 下流	高16.6k 右岸16.6k	高11.2k [河川本 流線]	高18.1k 右岸18.1k	高17.2k 右岸17.2k	高15.2k 右岸15.2k	高10.8k 左岸10.8k	高10.2k 左岸10.2k	高12.0k 右岸12.0k	高11.6k 左岸11.6k	高10.0k 右岸10.0k	高10.2k 右岸10.2k	高11.6k 左岸11.6k	高10.0k 右岸10.0k	高10.0k 左岸10.0k					
掘削土砂	総量	m ³		100	187	200	0	—	2,400	200	200	2,750	4,300	5,700	420	1,200	500	1,000	90	2,000	21,247				
	すぐに搬出可能な量	m ³		100	0	0	0	—	0	200	200	2,750	1,400	0	75	1,200	500	1,000	90	2,000	9,515				
根固ブロック	テトラポッド	4t	個		—	—	—	—	—	—	—	—	90	—	—	—	—	—	—	—	90				
	大皿ブロック	4t	個		—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	2				
	3連ブロック	4t	個		—	—	—	—	—	—	—	—	120	—	—	—	—	—	—	—	120				
	コーケンブロック	2t	個		—	—	—	—	—	—	—	—	97	—	—	—	—	—	—	—	97				
	アクモン	4t	個		—	—	—	—	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50				

実施効果（特に令和元年東日本台風にかかわるもの）

- 特になし

⑬消防団への入団を促すための広報の充実【取組44】

◇令和元年度富士見市総合防災訓練における消防団員の募集【入間東部地区事務組合消防本部・富士見市】 背景

- 少子高齢化等により、地域防災の要である消防団への入団が低調
- 令和元年10月の台風19号により、地域住民の防災への意識が高揚

実施状況・効果

- 令和元年度富士見市総合防災訓練において、消防団員募集ブースを作成し、団員を募集
- 防災訓練参加者 : 約3,000名
- 入団者 : 2名

富士見市総合防災訓練の概要

- 実施日：令和元年11月24日
- 場 所：入間東部地区事務組合東消防署訓練場
- 内 容：
 - ・各ブースで様々な訓練が体験できる「フェア型」の要素を取り入れた訓練
 - ・本市の特徴である水害に焦点を当てた訓練
 - ・市民への防災意識の高揚を図るための発災～対処までのシナリオ訓練



【消防団活動紹介】



【降雨体験車】



【水圧扉・水路歩行体験】

⑰消防団員や市民への研修を実施【取組 4 4】

消防団員及び市職員を対象に、水防に関する基礎的な知識と技能修得を目的として水防技術講習会を開催した。【本庄市】

また、自治会への出前講座や安全安心まちづくり研修会において、市民へ浸水想定区域や指定緊急避難場所の研修を行った。

